

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	建設局公園緑地部公園管理課
評価対象期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市立白野江植物公園	施設類型	目的・機能
			I	②
	所 在 地	門司区白野江二丁目		
	設置目的	四季を通じてさまざまな花が鑑賞できる公園		
利用料金制		非利用料金制 ・ <input type="checkbox"/> 一部利用料金制 <input type="checkbox"/> ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制	有・ <input type="checkbox"/> 無	ペナルティ制
指定管理者	名 称	内山緑地建設株式会社 北九州支店		
	所 在 地	北九州市小倉北区清水一丁目12番15号		
指定管理業務の内容		<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設管理・植物管理 ○ 施設運営業務、各種イベントの企画・調整・運営業務 		
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント						
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み						
(1) 施設の設置目的の達成						
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。						
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。						
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。						
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。						
[所見]						
利用者数	【参考・更新前】 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
目標値	62,000	63,000	70,000	56,827	62,061	70,000
実績	98,153	84,905	64,907	50,357	44,448	56,579
目標達成率	158.3%	134.8%	92.7%	88.6%	71.6%	80.8%
* … 評価対象年度						
※利用者の目標値については、令和2年度（4月11日～5月12日）・令和3年度（5月12日～6月20日）は臨時休園を行っているため、目標数を算定しなおしている。						
① 指定管理者は、植物管理の専門家として、植物の特性を活かしながら、長期的な目で質の高い維持管理を行いつつ、学びの場としての植物に関するイベント、体験プログラムの開催、観光客にも喜ばれる居心地のよい空間の創出を基本方針として管理運営を展開している。「北九州市の植物公園」としての役割を重視しつつ、本市唯一の花木園として、また、観光資源として機能の充実を図っている。 利用者数については、令和4年度は目標値を下回っている。これは、外国人利用者や団体利用者がコロナ禍以前と比べて激減したこと、年配の利用者が来園を控えたことが減少の大きな要因である。なお、秋以降、団体利用者等については改善傾向である。						
② 利用者の安心安全確保のための取組として、利用者・スタッフへの検温の実施や、消毒液の設置などや定期的な消毒など衛生管理の徹底、イベントの中止・縮小などを行った。一方、利用者を増やすための取組みとして、これまでの入園者の動向やニーズを考慮した実施計画をたて、公園の資源を活用したイベントや体験プログラムを実施し、新規利用者、リピーター双方の獲得に努めた。 また、公園情報を提供する案内マップや植物情報に、イベント情報等を追加掲示するなどの工夫、見どころなどへの誘導案内、車いす、ベビーカー、電動歩行器など備						

品類の貸出等、利用者の状況に合わせた対応に加え、園内で見られる野鳥を紹介するQRコード付きの配布物を作成し、野鳥愛好家だけではなく、その他の利用者にも園内の散策を楽しむことができるよう工夫を行った。利用者からの植物に関する問合せや相談に常時対応している。今年度は飲食施設（お花茶屋）の臭気対策として改修を行い、利用者にも好評である。市の事業である文化パスポート事業やお出かけ応援事業にも積極的に参加し、お出かけ需要の喚起に取り組んだ。

- ④ 広報活動については、ホームページ・SNS（フェイスブック）に施設情報のほか植物の状況やイベント情報を掲載するとともに、テレビやラジオへの植物の見頃に合わせたプレスリリースや、市政だより、市政番組での情報発信、新聞や情報誌の有料広告、九州内の道の駅に設置される観光案内マップ「道の駅旅案内」への掲載、また、レジャー誌やタウン誌をはじめ、旅行会社の情報誌、種苗カタログ、地域の季刊誌、日本自動車連盟（JAF）の情報誌などへの掲載を行った。

他にも、公園だより（季刊誌）やチラシの配布、ポスターの掲示を市内外の各施設や観光施設に依頼するとともに、市内の主要JR駅へは、ポスター掲示、ガイドマップの設置の依頼とともに、PRを兼ねた駅構内での花壇や植木鉢の管理を行った。また、福岡市市営地下鉄での車内広告を行った。今年度新たに北九州市営バスへのデジタルサイネージによる車内広告にも取り組んだ。

営業活動については、国内外の団体ツアー再始動に伴い、誘致のための営業活動を再開した。国内は福岡市、熊本市、山口県などを重点的に行い、国外は台湾への営業を重点的に行った。これにより、3月下旬台湾からの集客が増加している。

（２）利用者の満足度

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

[所見]

◆ 園内の整備状況

満足度	[参考・更新前] H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
大変満足・満足	95.8%	98.2%	96.4%	94.3%	97.7%	97.6%
やや不満・不満	4.2%	1.8%	3.6%	5.7%	2.3%	2.4%

* … 評価対象年度

◆ スタッフの対応

満足度	[参考・更新前] H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
とても良い・良い	97.1%	97.9%	95.2%	98.5%	98.2%	98.4%

不満・とても不満	2.9%	2.1%	4.8%	1.5%	1.8%	1.6%
----------	------	------	------	------	------	------

* … 評価対象年度

◆ 再来園の希望

満足度	[参考・更新前] H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
また来たい	97.5%	98.5%	99.1%	94.7%	99.4%	97.7%
来たくない	2.5%	1.5%	0.9%	5.3%	0.6%	2.3%

* … 評価対象年度

- ① 利用者アンケートの「園内の整備状況について」の質問には97.6%の利用者が「大変満足・満足」と回答しており、「スタッフの対応について」の質問には、98.4%の利用者が「とても良い」「良い」と回答している。
自由意見において「植物の手入れ」「スタッフの対応」に関する良い評価の記載が多く、指定管理者の取組が利用者の満足度を高めていると思われる。
- ② 施設に設置したアンケート用紙で、利用者の意見を把握するのはもちろん、スタッフから積極的な声かけを行い、植物の見頃やイベント情報、休憩室の情報を提供するとともに、園に関する意見を直接聞いた。アンケート結果や意見を分析し、対応を行うなど、業務の改善やサービス向上に取り組んだ。
- ③ 管理業務の確実な遂行や利用者への情報提供、公平で適切な対応、スタッフ間の情報提供の徹底、接客マナーの講習等などのスタッフ教育等を行い、来園者の要望が苦情にならないよう努めた。その上で、苦情については適切に対応を行った。隣地の景観が悪いことについて目隠しとなる柵の設置など、改善策について速やかに対応した。
- ④ 利用者への情報提供として、施設情報や注意事項、イベント案内などの提供に加え、植物情報については、利用者が分かりやすく親しみをもってもらえる案内に取り組んだ。
- ⑤ サービスの維持・向上として、水生園の手入れ（浚渫、護岸の保護、景観の向上）を行った。あわせて湿性園の改修、伐採木の撤去など景観の向上に努めた。また、園内の甘味処「御花茶屋」の運営やケータリングサービスの実施、見頃を迎えている植物や珍しい品種など、園芸愛好家や収集家のニーズにも応えられる植物の販売を行った。さらに、繁忙期の混雑緩和と安全対策として、外部委託による駐車場整理の実施、公共交通機関の利用を呼びかけるポスターやホームページでの周知、門司警察署と相談のうえ、案内看板の掲示を行う取組を行った。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

[所見]

【経費推移表の注意事項】

1 「指定管理料」は、市の総支出額を反映させるため、新型コロナウイルス感染拡大による利用料金に係る市からの損失補填額（以下「市損失補填額」という。）を含んで記載した。

※令和4年度に関しては、お出かけ応援事業の補てん分を含んで記載した。

(指定管理料)

指定管理料 (千円)	[参考・更新前] H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算	53,031	51,840	52,038	55,484	55,207	51,914
決算	53,031	51,840	51,190	51,622	51,622	51,622
コロナ補填等	-	-	848	1,962	3,585	292

* 市損失補填額（元年度848千円、2年度1,962千円、3年度3,585千円、4年度292千円）

元年度～3年度はコロナ補填、令和4年度はお出かけ応援事業による減収補填等。

* … 評価対象年度

(総事業費)

総事業費 (千円)	[参考・更新前] H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算	65,878	63,600	63,561	64,462	64,462	64,462
決算	69,369	64,876	60,934	56,212	67,302	66,449

* … 評価対象年度

(うち、光熱水費)

うち光熱水費 (千円)	[参考・更新前] H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算	1,340	1,529	1,529	1,529	1,529	1,529
決算	1,323	1,869	1,941	1,557	1,703	1,958

* … 評価対象年度

①②③ 草本類の栽培では、苗の購入を減らして播種・種からの栽培、多年草の植栽、大株に成長したものの株分け移植、花期の長いものは切り戻して観賞期間を延ばすなど、植栽・手入れの方法を工夫した。また、伐採木・伐採竹を土留めや杭、柵、支柱、貸出用の杖などに再利用するとともに、アジサイや草花などをドライフラワーとして園内事業に活用することで、植栽維持管理費とイベント費用の低減に努めた。

管理事務所でのこまめな消灯や冷暖房の室温設定、休憩室利用者への節電・節水の呼びかけ、アサガオを使ったグリーンカーテンを設置することで、節電・節水に努めた。

管理運営業務については、ボランティア団体との協働や近隣施設との協力により、維持管理費やイベント費用の削減に取り組むとともに、外部委託や工事の発注について、複数業者からの見積書を徴取することで業者選定を行うなど、契約金額を抑える取組を行った。

(2) 収入の増加

① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

[所見]

収入 (千円)		[参考・更新前] H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		利用料金 収入	予算	11,731	10,690	11,650	11,650
	決算	14,280	15,579	17,225	14,853	12,960	15,842
自主事業 収入	予算	1,116	1,070	1,190	1,190	1,190	1,190
	決算	1,483	1,341	1,128	969	899	1,138

* … 評価対象年度

① 新型コロナウイルス感染症の影響が薄らぎ、利用者数が前年度と比べて増加したことにより、利用料金収入、自主事業収入とも増加となった。

その中でも、自主事業収入増に向けて、オリジナル商品の販売を拡充し、弁当の予約サービスやハチミツの販売、御花茶屋の営業などを行った。また、地域特産物や食品、植木などを販売する公園市などに取り組んだ。

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

[所見]

① 統括責任者として経験豊富な所長を配置、管理運営体制を広報部門、植栽・施設管理部門、事務・経理部門に分け、責任者と専門スタッフを配置するとともに、マルチスタッフ制を導入することで、合理的な人員配置を行った。また、職員の能力、資格、経験に応じた勤務ローテーションを組むとともに、緊急時や繁忙期などに、同社北九州支店からの人的支援、協力体制により対応を行った。

② 職員の資質・能力向上を図るため、接遇・マナーに関する講習、防災訓練・傷病者対応研修、植栽管理に関する研修など、各種研修に取り組んだ。

③ 園の運営、施設の維持管理を支援するボランティア団体として「菊作り友の会」「白野江ガーデニング倶楽部」「フォト寺子屋」「白野江写真クラブ」「白野江見守り隊」が組織され、連携や協働が図られた。

また、イベントへの地域住民・団体等の参加呼びかけ、関門地区や北九州都市圏の会議、協議会への参加、他の指定管理施設との連携による施設紹介、アサギマダラスタンプラリーなどの協働イベント、体験・学習の場としての地域の学校との事業実施、自治会等地域団体の事業実施場所の提供、地域活動への職員参加など、幅広く、地域や関係団体等との連携・協働に取り組んだ。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。
- ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。
- ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。
- ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

[所見]

- ① 個人情報については、市条例や「白野江植物公園個人情報取り扱い要領」に基づき、施設の利用者の個人情報の保護が遵守された。
- ② 利用者については、イベント申込、無料休憩室の予約など、利用ルールを明確化し、施設利用を平等・公平に行った。
- ④ 施設の管理運営については、経理に関するモニタリングにおいて、不適切な点がないことを確認した。
- ⑤⑥ 事故防止への対策については、園内巡回記録簿を用いて、施設、設備、備品などの日常点検、定期点検を行った。また、災害・事故発生時に備えて、危機管理体制の確認と情報共有を行った。
- ⑦ 台風被害、イノシシによる獣害があったが、安全に配慮し、迅速かつ適切に対応を行った。また、傷病者の発生についても、迅速に救助後、救急車の要請を行う等適切に対応を行った。

【総合評価】

[所見]

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う影響が薄らぎ、利用者増の兆しが見えてきたところである。そうした中、国外からのインバウンド需要掘り起こしのための営業活動や、施設の設置目的や基本方針に沿った質の高い管理運営を適切に行った。また、様々な年齢層や季節に応じた展示・イベントの実施、園内表示、ガイドマップ等の充実による

施設の魅力向上に取り組んだ。

[今後の対応]

令和5年度は、団体客・外国人旅行者などの増加が想定されるが、利用者の安全・安心に配慮しながら、施設の設置目的や基本方針に沿った管理運営を行うとともに、来園者に分かりやすい情報提供、さらには、積極的かつ幅広い広報・営業活動などを継続することで、白野江植物公園の魅力を伝え、来園者増に取り組むよう期待する。

また、光熱水費・人件費などの増加が懸念される運営経費については、引き続き経費削減に繋がる取組と工夫を行うことを期待する。